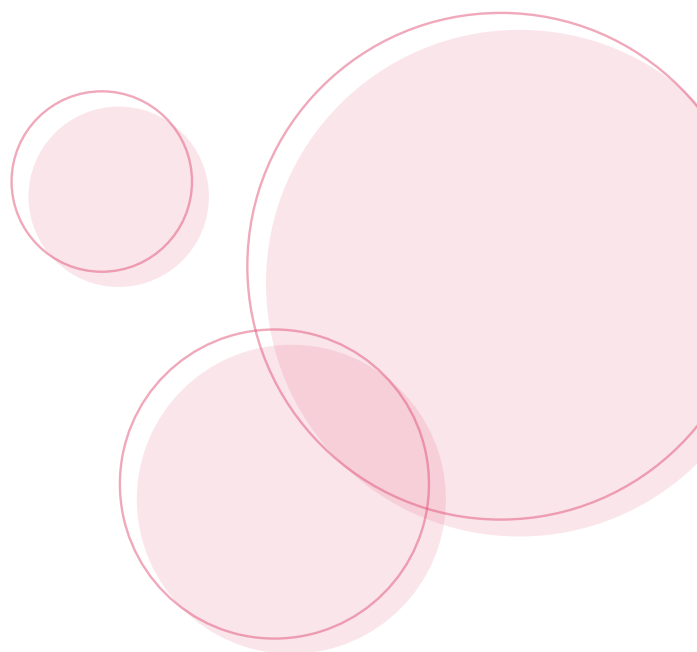


# 第1章

## 計画策定の 基本的な考え方

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の性格と役割、期間



# 1 計画策定の趣旨

2015（平成27）年は地方創生元年とされ、全国の自治体において「地方創生」の取り組みが積極的に進められており、知恵と実行力を巡る自治体間の競争が激しさを増しています。

本県においても、人口減少・少子高齢化など諸課題の克服に向け、今日のやまなしの抱える問題を直視し、地域の持つ様々な地域資源を生かしながら、発展に向けたポテンシャルを最大限に発揮することにより、新たな地域社会を創り上げていくことが重要となります。

県民の理解と協力のもと、こうした取り組みを着実かつスピーディーに進めていくため、「ダイナミックやまなし総合計画」を県政運営の新たな指針として策定するものです。

# 2 計画の性格と役割、期間

本計画は、各部門における県計画の上位に位置する、新たな県政運営の基本指針となるものであり、大きく分けて、2027（平成39）年のリニア中央新幹線開業時及び開業後の本県の姿等を明らかにする中長期的な構想としての「長期的展望」と、2020（平成32）年の東京オリンピック・パラリンピック開催までに実施する施策・事業に関する「アクションプラン」により構成します。

「長期的展望」においては、今世紀後半ごろを念頭に本県が目指すべき地域社会の姿と、その実現に向けた取り組みの考え方を明らかにします。更に、アクションプランに基づく施策・事業等を踏まえ、リニア中央新幹線開業時ごろを目途に期待される本県の姿についても具体的に展望します。

「アクションプラン」においては、2015（平成27）年度から2019（平成31）年度までの5年間を計画期間とし、計画期間中に実施する主要な施策・事業の内容や工程等を明らかにします。

## 計画の構成

### 長期的展望

- 目指すべき地域社会（今世紀後半ごろ）
- 期待される本県の将来展望（2030（平成42）年ごろ）

### アクションプラン

- 計画期間 2015（平成27）年度～2019（平成31）年度
- 計画期間中に実施する主要な施策・事業の内容及び工程等



本県は、東京圏に隣接し、かつ豊かな自然に恵まれるという立地上の有利性を有していますが、今後、リニア中央新幹線が2027（平成39）年には東京・名古屋間で開業し、更に2045（平成57）年には大阪まで延伸されることとなっており、これにより本県と東京圏、中京圏、大阪圏との時間距離が大幅に短縮され、これまでとは比較にならない格段に高い有利性を獲得することになります。

※例えば、現在、JR中央線・特急電車の甲府駅・新宿駅間は90分程度ですが、リニア中央新幹線が開業することにより、山梨県（仮称）駅・品川駅間は約25分で結ばれることになり、これを東海道新幹線における東京駅からの時間距離に当てはめると、山梨県（仮称）駅は新横浜駅と同等の場所に位置することになります。

アクションプランの計画期間となる2019（平成31）年度までの5年間は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて拡大する様々な需要を積極的に取り込み、リニア中央新幹線の開業により格段に高まる有利性を最大限に生かした新たな地域社会を創造していくための土台づくりの第一段階となるものです。

本県が、人口減少とこれに伴う様々な課題を克服し、明るい未来に向け大きく飛躍していくことができるかどうかは、この最初の段階をしっかりとやり遂げ、着実に次の段階へとつなげていくことができるか否かにかかっており、これからの5年間は、本県にとって極めて重要な期間となります。

## リニア中央新幹線開業で大きく変わります

